大松小学校総括評価表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価		学校関係者の意見	
		評価指数	評価指数の達成度	総合評定		
①確かな学力の育成 ・該当学年の基礎的な力を身につけ，よく考える子どもの育成をめざす。 ・児童理解を深め，個に応じた適切な支援をめざす。	①指導方法の工夫，教材研究，研究授業を行い，「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導方法を共有する。 ②児童のコミュニケーション能力を高め，表現力を身に付けさせる。 ③家庭学習に積極的に取り組もうとする児童を育成する ④学級・学校の一員としてみんなのためになる活動に進んで取り組む児童を育成する。 ⑤自分の生活を振り返り，よりよい生活をしようとする児童を育成する。	①「学習したことをノートに書いている」と答える児童が 80 %以上となる。 ②「自分の考えを書いたり，発言したりしている」と答える児童が 80 %以上となる。 ③「家庭学習にすすんで取り組んでいる」と答える児童が 80 %以上となる。 ④チェックシート等をもとに，全教職員が個別の児童の実態に応じた支援を行う。 ⑤対象児童に対する個別の記録を残し，個々の児童の実態に応じた支援を行う。	①児童は 80.7 %（前年度 90.2 %）と達成できた。 ②児童は 88.7 %（前年度 73.9 %）と達成できた。 ③児童は 87.9 %（前年度 79.6 %）と達成できた。 ④気になる児童についてチェックシートを活用し，児童の支援や教育活動に役立てた。 ⑤気になる児童については，支援引き継ぎシートを作成し，個に応じた支援を行った。	（評定） B	・参観した学級で，タブレットを活用している授業もあった。児童が扱いに慣れているのを感じる。 ・これからは，タブレットを。効果的に活用する授業を工夫し，家庭学習でも生かしてほしい。 ・児童はしっかり話を聞き，真面目に学習に取り組んでいる。自分の考えを伝える力が課題ということから，まずは自分で考え，理解し，表現する力をつけてほしい。 ・若手の教員が多い。若手は年齢が子どもに近く子どもの気持ちを理解できることがメリットだろう。若手教員をのびのび育ててほしい。	○ ICT 機器を積極的に活用し，児童が自主的・主体的に学習に取り組むよう授業改善を図る。また，「学びナビ」を活用し，学年に応じた話し方・聞き方ができる授業づくりに努める。 ○「家庭学習のてびき」や学年だよりで家庭への啓発を繰り返し行い，家庭学習の定着を図る。 ○家庭学習の量や内容，到達度について，校内や解を図る。 ○特別支援教育についての共通理解を深めたり，個に応じた支援を行ったりするために，引き続き児童の特性理解と効果的な支援の方法について知識を深める。
		活動計画	活動計画の実施状況	（所見）		
		①　授業の習熟度を高めるために，板書の工夫やノート指導の研修をする。 ②－１学年に応じた発表の仕方を示したり，話合いを深める手立てを講じたりする。 ②－２友達と意見を出し合い，深く考える場を設定する。 ③　「家庭学習のてびき」を活用し指導する。 ④　定期的に，また必要応じて校内委員会を開催し，個別の支援を必要とする児童の理解に努める。 ⑤　個別支援の記録もとに，関係機関や家庭とも連携を図りながら，適宜共通理解の場を設ける。	①　教職員が互いの板書を見合う機会を設けた。 ②－１話す聞くタイムや，「学びナビ（大松っ子秘伝の書），聞き方名人・話し方名人の掲示を活用した。 ②－２ペア・グループ学習の機会を意識して設けた。 ③－１頑張りが見られる自主学習ノート等を学年だより等で紹介した。 ③－２家庭での学習時間を 10 分×学年となるよう，共通理解をすすめた。 ④　必要に応じて校内委員会を開催し，児童の情報を共有したり，児童の実態について理解を深めたりした。 ⑤　保護者と話し合う場を適宜設けたり，関係機関につなげたりした。	○全学年で研究授業を実施，板書を互いに見合うことで自分の授業を見直したり研究を深めたりすることができた。 ○児童は真面目に授業に取り組み，聞く態度もよい。しかし，共感や疑問をもちながら聞くことに課題がある。 ○家庭学習のてびきで学習時間，内容等を家庭に伝えている。教職員でも宿題の内容や量について検討することができた。 ○保護者や関係機関と連携を図ることができた。		

「評定」の基準　A：十分達成できた　B：おおむね達成できた　C：達成できなかった

大松小学校総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価 評価指数と活動計画	評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
②豊かな心の育成 ・よりよい自分や生活を創っていく力を身につける授業実践を行う。 ・自ら考え判断し，主体的によりよく生きようとする児童を育成する。 ・自分たちの生活や環境をよりよくしようと，自ら考え行動できる児童の育成を図る。 ・全校児童が元気よく登校するとともに，あいさつ等の基本的な生活習慣を定着させる。	①互いの違いを認め合い，だれとでも進んで関わろうとする児童を育成する。 ②正しく判断し，相手の気持ちに寄り添った行動ができる児童を育成する。 ③場に応じた適切な言葉遣いと相手を思いやる言動のとれる児童を育成する。 ④自分の生活を振り返り，よりよい生活をしようとする児童を育成する。 ⑤学級・学校の一員としてみんなのために活動に進んで取り組む児童を育成する。 ⑥学級目標や週目標などをもとにめあてをもち協力して実践しようとする児童を育成する。 ⑦進んであいさつする習慣を身につけさせる。 ⑧学校のきまりや約束を守る姿勢を身につけさせる。 ⑨児童の不登校やいじめ等の問題行動を未然に防ぐ。	**評価指標** ①「自分のよいところが言える」「友達のよいところが言える」と振り返る児童が80%以上となる。 ②「相手の気持ちを考えていない友達がいたら注意できる」と振り返る児童が80%以上となる。 ③「先生や友達など周りの人に対して思いやる言動をとることができた」児童が85%以上になることをめざす。 ④道徳の時間，先生や友達の話を聞き，自分の生活に生かすことができた」児童が85%以上になることをめざす。 ⑤「みんなのためになる活動にすすんで取り組めた」と答える児童が80%を超える。 ⑥「自分でめあてをもって，それに向けてがんばることができている」と答える児童が80%を超える。 ⑦「あいさつができている」と答える児童が90%をこえる。 ⑧「きまりや約束を守って生活している」と答える児童が90%をこえる。 ⑨全教職員が不登校やいじめ等の対応を必要とする児童について把握し，それぞれの立場で支援している。	**評価指数の達成度** ①児童は84.6%（前年度80%）で達成できた。 ②児童は77.5%（前年度78.3%）で達成できなかった。 ③児童は84.1%（前年度85.7%）で達成できなかった。 ④児童は81.6%（前年度81.5%）で達成できなかった。 ⑤児童は87.7%（前年度85.7%）で達成できた。 ⑥児童は76.5%（前年度78.1%）で達成できなかった。 ⑦児童は87.7%（前年度82.5%）で達成できなかった。 ⑧児童は82.8%（前年度84.2%）で達成できなかった。 ⑨教職員は100%（前年度90%）で達成できた。	（評定） B （所見） ○数値は前年度より下がったが，様々な活動や人との関わりを通し，少しずつ自己肯定感や自尊感情をもつ児童が増えている。また，友達とうまく関係づくりができている児童も増えつつある。 ○係活動，異学年交流等を通し，児童の主体性を高めるための取組が学校全体でできた。 ○話合い活動については，「学びナビ」の活用を図り，発達の段階も踏まえつつ積極的に実施できた。 ○児童会運営委員会を中心に朝のあいさつ運動の広がりが見られたのはよかった。今後も，児童主体の活動を実施することで，安心した学校生活を送ることができる環境を整えていきたい。	・「自分でめあてをもってそれに向けてがんばることができている」という項目があった。大リーグの大谷選手は８１の達成したい目標を書き出し，取り組んだという話だ。子どもたちにも目標をもってがんばってもらいたい。 ・社会が多様化している現在，児童の言葉遣いは社会や環境から受ける影響が大きいと思われる。適切な言葉遣いができるよう指導していくことが大切だろう。 ・あいさつについては，家庭によっては「おはよう」のあいさつがないという話も聞く。子どもたちから「おはよう」と言うことで，保護者も気づくことがあるかもしれない。あいさつが習慣化するよう粘り強く指導を続けてほしい。	○人との関わりや体験的な活動を増やしたりするなど，児童が多面的に自分のよさに気づくことができる活動を意識的に取り入れていく。また，自尊心を高め，個性を伸ばし認める指導を継続して行う。 ○キャリアパスポートを活用し，自分の生活を振り返る機会を設け，より高い目標に向かう指導を行う。相手の立場に立って考える児童の育成を目指し，学校全体で気持ちよい言葉遣いや行動の定着を図る。 ○人権集会やあいさつ運動など児童が中心となり活動することができたことが成果である一方，児童会運営委員会の負担が大きい面もあるので，委員会の在り方を考えていく必要ある。 ○各学年に応じたよいところ見つけの活動や掲示を今後も継続して行っていく。 ○学びナビを活用し，話合い活動をより積極的に取り入れる。そのために学級会の例を校内研修やメンター研修などで共有する。 ○どの学習でも導入時に自分なりのめあてをもち，授業終わりに振り返る。
		活動計画	**活動計画の実施状況**			
		①－１自分や友達のよさに気付くような掲示や発表の場を工夫する。	①－１体験的活動や異学年交流等を通し，多面的に自分のよさに気付く活動を取り入れた。また，各学年の発達段階に応じてよいところ見つけの掲示を行った。			
		①－２一人一人を大切にした声かけを行い，互いに認め合う雰囲気づくりに努める。	①－２各学級で人権尊重を基本においた教育活動を実施した。			
		② 正しい知識をもち，正しく判断する力と実践力がつくように授業を工夫する。	② 各学年で人権学習の授業を公開し，授業研究会で検証した。			
		③ 教職員間で場に応じた適切な言葉遣いについて共通理解し，全教職員で指導する。	③ 児童の言葉遣いについて教職員が共通理解し，同一の指導を行った。			
		④ 年間計画にある道徳の時間を充実させ，児童一人一人が道徳的な価値のよさに気付くように努める。	④ 学習した内容を掲示し，学習後も道徳的価値を意識させた。			
		⑤ 委員会や学活などで，児童自身の企画や運営による活動に取り組ませる。	⑤ 運動会は6年生が主となり計画・運営した。異学年交流も実施し，名札を作り名前で呼び合った。各学級で係活動も工夫し行った。			
		⑥ 学級で自らを振り返り，自分たちの課題を話し合い，めあてを持って生活するように働きかける。	⑥ 学級会や朝の会・帰りの会を活用し，めあての確認，振り返りを行った。			
		⑦－１朝の登校時の正門前で児童会を中心としたあいさつ運動をする。	⑦－１児童会運営委員会だけでなく，ボランティアで参加する児童も増えてきた。			
		⑦－２朝会であいさつの意味や正しいあいさつの仕方を指導する。	⑦－２朝会で発表したり掲示物を活用したりしてあいさつのよさや意味について全校で考えた。			
		⑦－３全教職員による当番制の下校指導で，帰りのあいさつを指導する。	⑦－３下校指導等であいさつの指導を徹底した。			
		⑦－４校内だけでなく遠足や校外学習等においても指導する。	⑦－４行事や長期休暇の前にあいさつについての指導を各学級で行った。			
		⑧－１学校の実態に応じて具体的な週目標を決め，重点的に指導する。	⑧－１週目標を各学年でで決め，朝会で生活の振り返りと週目標のポイントを発表した。振り返りを行い，次週に引き継ぐサイクルを確立した。			
		⑧－２その場での指導と継続的な指導を行う。	⑧－２学校全体で指導の基準を共通理解し，継続して指導ができるようにした。			
		⑨－１アンケートを活用し，いじめや不登校の早期発見・早期対応をする。	⑨－１アンケートをもとに児童と面談を行うなど児童の問題を早期発見できるよう努めた。			
		⑨－２学級目標を話し合って決めることにより，支えあえる学級集団を育てる。	⑨－２メンター制度等，他の教員の指導法を学ぶ場を設けることで学級目標をはじめとしたよりよい学級経営の方法について見直すことができた。			
		⑨－３全教職員の情報交換により児童のよさやがんばりを共有し，それを「ほめ言葉」として児童にフィードバックしていく。	⑨－３体調面を中心に共通理解が必要な児童については顔写真を見ながら全教職員で確認した。また，異学年交流等，教員がなるべく多くの児童と関わり，そこでのよさを担任に伝えるなどフィードバックできるようにした。			

「評定」の基準　A：十分達成できた　B：おおむね達成できた　C：達成できなかった

大松小学校　総括評価表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価		学校関係者の意見	
③健康な心と体の育成 ・運動のおもしろさを知り，進んで体力向上をめざす児童を育成する。 ・よりよい生活習慣をめざして，自ら課題を解決しようとする子どもを育成する。 ・健康な生活を送るために，正しい食生活ができるようにする。	①様々な運動に親しむ機会を与えたり，体育の授業を充実させたりすることで，児童の運動への興味・関心を高め，体を動かすことが好きな児童を増やす。 ②基本的生活習慣を確立し，心身ともに健康で，健やかに成長し，毎日元気に楽しく，心豊かに，充実した学校生活が送れるようにする。 ③よりよい食事ができるようにするとともにアレルギーへの共通理解を図る。	評価指数 ①「体を動かすことが好き」という児童の割合を全校平均で90％以上となることをめざす。 ②早寝・早起きし，朝食を食べてから登校する児童の割合が，80％以上となる。 ③給食をバランスよく残さず食べることができた児童が80％以上となる。 活動計画 ①－１トラックなどのラインが引きやすいよう運動場にポイントを打つなど学習環境を整え，児童の運動量を確保する。 ①－２体操・水泳・陸上・クロスカントリー大会などの練習を，選手だけでなく４年生や練習のみを希望する児童へも参加を呼びかけ，運動への意欲付けを図る。 ①－３チャレンジランキングへの参加や学習カードの活用など，様々な運動に親しむ機会を紹介し，時間や場の確保を図る。 ②　学習成果・運動能力の向上等に大きな影響を及ぼす基本的生活習慣の確立の大切さを，あらゆる機会を通して児童に指導するとともに，保護者にも啓蒙し，協力が得られるよう努める。 ③　給食時間や学活の時間等に，バランスのよい食事やマナーを指導するとともにアレルギー対応についての共通理解を行う。	評価指数の達成度 ①児童は82.4％（前年度84.4％）で達成できなかった。 ②児童は83.8％（前年度81.7％）で達成できた。 ③児童は81.4％（前年度73.2％）で達成できた。 活動計画の実施状況 ①－１体育指導について研修を実施した。児童が楽しみながら運動するための手立て等について話を聞いたり意見交換をしたりした。 ①－２すべての行事に多くの４年生が参加して練習を行った。 ①－３体育委員会が「楽しもう長縄」週間を実施した。１～６年生の児童が大勢参加し，長縄を楽しんだ。 ②　生活習慣の振り返りの取り組みを実施した。 ③　毎月給食目標と食育タイムを掲示し，啓発した。	総合評定 （評定） B ○運動する児童とそうでない児童の２極化がみられる。 ○多数の児童が早起きをし歩いて登校できているが朝食を食べていない，寝る時間がおそかったという児童もいる。 ○給食の目標を掲示し，朝の会などで確認することが食育意識にも繋がった。 ○クラス全体で食品ロスをできるだけ減らそうとする意識が高まってきている。	・朝食を食べてこない児童もいるのだと改めて感じた。学校で意欲的に活動するためには，朝食は大切だろう。家庭への啓発を行ってほしい。 ・給食に関しては，しっかり噛むということができていない児童もいると思われる。意識させる指導が必要だろう。	○体育の指導法を学ぶ校内研修や休み時間の外遊びの紹介を行い，体力向上に努める。 ○基本的生活習慣や感染症予防についての意識を高めるために，継続的に朝会での啓発や取り組みを行っていく。 ○不登校や登校しぶりについては，保健室においても児童の困り感を減らせられるような環境づくり，心身のケアに努める ○給食を一人分に均等につぎ分け，基本の食べる量を意識することと，静かに集中して食べる時間を設ける。学校全体で共通理解し給食指導に取り組む。

「評定」の基準　A：十分達成できた　B：おおむね達成できた　C：達成できなかった

大松小学校総括評価表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価		学校関係者の意見	今後の改善方策
④保護者・地域から信頼される学校 ・機能的な学校組織と活力ある学校づくりを図る。 ・自らの生命や安全は，自らで守るという意識を高める。	①学校経営方針に基づき，課題解決に向け協働し，主体的に実践・改善することができる教職員集団を形成する。 ②学校・地域・関係機関が連携し，安全で安心な学びの場づくりの体制を構築する。 ③どのような場面でも交通ルールに基づいた行動ができるようにする。 ④自然災害発生時等の緊急事態発生の際に，適切な行動がとれるように指導する。	評価指数 ① 自己評価の個別評価Ａ，Ｂ達成を 100 %にするとともに，職務に対してやりがいを感じている教職員が 90 %を越える。 ② 「学校に来るのが楽しみ」と答える児童が９０%を超える。 ③ 「交通ルールが守れた」と答える児童が，９０%以上となる。 ④－１状況に合わせて避難がスムーズにかつ迅速に行えるようにすると答える教員が９０%以上になる。 ④－２児童の引き渡し方法について確認できていると答える保護者が８５%以上になる。 活動計画 ① 教職員の力量形成と組織力を高めるため，直接的な指導，学校評価，教員評価，校内研修を具体に即して行うことで充実させる。 ②－１コミュニティスクールを活用し，よりよい学校づくりについて検討し改善を図る。 ②－２必要に応じ関係機関と連携を図り，早期対応，早期解決に努める。 ③－１登下校時に教職員による通学路での交通安全指導を行う。 ③－２交通安全教室を実施する。交通ルールに加え，ヘルメットの着用についても指導する。保護者への啓発を行う。 ④－１自然災害発生時等における安全指導を機会を捉えて行う。 ④－２児童の引き渡し方法について確認・再確認のために保護者への広報を定期的に行う。	評価指数の達成度 ① 自己評価の肯定的回答が 91.6 で昨年度の 100 %を下回った。しかし，Ａの回答は 5.5 %上回っている。 ② 肯定的評価が 86.4 %で目標値（90 %）を下回っているが，昨年度から 1.1 %上回っている。 ③ 肯定的評価が昨年度に比べて 0.7 %下回っている。さらに，約８割しか肯定的回答をしておらず，目標の９割にはほど遠い。 ④－１昨年度に引き続き肯定的回答が 100 %であった。 ④－２目標値（85 %）を越えることはできなかったが昨年度より 4.7 %上回った。 活動計画の実施状況 ① 学校だよりや学校ホームページ等で児童の様子，学校行事等を発信し，保護者の理解と協力を得られるよう努めた。 ②－１ 年間３回学校運営協議会を実施した。地域・学校・児童の実情から，よりよい学校づくりに向け，協力・相談できる体制が築けつつある。 ②－２ YOSS（AI スクリーニング）に取り組んだ。学級の中の気になる児童を抽出し，支援を必要としている児童については，児童相談所・市子ども家庭相談室，SC，SSW と連携し対応している。 ③－１ 学期始めは，教職員が通学路で交通安全指導を実施。下校時は，教職員が正門で児童の下校指導を実施している。 ③－２ 安全な下校，放課後，交通ルールを守った生活等について，校内放送等で児童に指導している。また，学年だより等でも保護者に安全な生活を啓発している。 ④－１ 勝占認定こども園と合同で，地震・津波を想定した避難訓練を行った。運動場への避難，校舎３階への避難ともにスムーズに行うことができた ④－２ 大地震等により児童を安全に下校させることが出来ない場合を想定し，引き渡し訓練を実施した。	総合評定 （評定） B （所見） ○年５回の授業参日を実施，ホームページも頻繁に更新し，学校の様子を伝えた。 ○不登校児童，家庭環境に心配のある児童等について関係機関と連携，対応できる体制の基盤がつくれた。 ○児童・保護者とも交通ルールを守っているとの肯定的回答は低かった。様々な場面を捉え交通安全について啓発していきたい。 ○こども園との合同避難訓練を実施した。また，６月には警報発令時には，集団下校と引き渡しを実施。徒歩で帰る児童の下校方法，車で迎えに来た時の引き渡し方法等についてよりよい方法を検討した。 ○９月には，引き渡しカードをもった保護者に児童を引き渡す訓練も実施した。	・不登校の児童，不登校気味の児童に対しては，登校したくないという何かの理由があると思われる。教職員や保護者では思い当たる理由がないときも，親しい友達がその理由に気づくこともあるだろう。子どもからの子どもの願いを明らかにし，不安を取り除くため，保護者と協力すること，友達からの情報も大切にしながら関わってほしい。 ・登下校の交通安全については繰り返した指導が必要だろう。	○自己評価の肯定的回答を高めるために年度途中で校務分掌や学級状況を見直しをする。 ○学校ホームページや学校だより等で学校行事や児童の様子を積極的に発信，保護者・地域・関係諸機関との連携を一層図る。 ○不登校，生徒指導上また家庭環境等で心配のある児童・家庭については，関係機関と連携をさらに図ることで，児童が安心して楽しく登校できるよう努める。 ○交通安全指導の充実が必要である。学校も交通パトロールや安全に関するたよりを発行するなど具体的な方策を考え取り組みたい。 ○教師が不在時の避難訓練等，児童自身が判断し行動できるよう，様々な状況を想定した避難訓練を実施する。 ○引き渡しについては学校に待機している児童をよりスムーズに保護者に引き渡すことができるよう検討していく。

「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　Ｂ：おおむね達成できた　Ｃ：達成できなかった